宇部・山陽小野田消防局消防長賞

「『その後』を意識した心構え」

宇部フロンティア大学付属中学校　２年　坂倉（さかくら）　萌花（もか）

「ウィーンウィーン」八月八日、家で一人でスマートフォンを見ていたところ、急に家中のタブレットやネットスピーカーが大きな音で鳴り出した。緊急地震速報だ。

この音が鳴った時に一人でいることは初めてだったので緊張したが、愛犬を抱え大きな家具や家電から離れ、外の様子を見ることができた。幸いにも揺れはほとんどなく安心した。

その後、仕事先から両親がそれぞれ連絡をくれた。母はすぐに家に戻るけれど、その間に地震がくると危険だから避難用具を出しておきなさいと指示をしてくれた。その後、近所の人にも連絡をとってくれたようだ。

東日本大震災の時に母の友人が被災している。当時母は生後８ヶ月だった私と自宅で遊んでいた。ニュースを見て驚き、友人に連絡するも繋がらず、とても不安な時間を過ごしたそうだ。その後、友人の無事は確認されたが、赤ちゃんである私がいることもあり、何も助けることができず無念さを感じてしまったそうだ。しかしその後、市の方から支援物資の募集をしていると連絡をいただき、こういったことで助けることができるんだ！と喜んで支援物資を揃えたそうだ。その支援物資を自衛隊の方が運び、届けてくれている報告を受け、感謝の気持ちでいっぱいになったと話してくれた。

当時は多くの人が地震に対しての知識もなく混乱するばかりで情報も少なかったが東日本大震災の経験を経て多くの人の意識が変わり対策ができるようになった。

私の住む地域では防災の日に近所の人と集まり、実際に避難所へみんなで移動する。正直に言うと近所の人はお年寄りばかりで話も合わず私はこの行事が苦手だった。しかし、自宅に戻ってきた母が近所の人に連絡をすると、「何かあったら萌花ちゃんと一緒に避難するからね」と連絡をくださったと教えてくれた。それを聞いて私はとても嬉しく安心した。

母は避難用具を用意することはもちろんだけれど、もし災害が起きたときにどういった行動をとるか、日頃からの訓練や情報など心構えが一番大切だと話してくれた。

その日、改めて両親と地震について話した。南海トラフ地震臨時情報が発表され、スーパーで水や米などを買う人がたくさんいたと父が話してくれた。我が家には普段から備えているものがあるため両親は焦った様子はなかったが、私は両親のように「その後」を意識して知識を高めることはできないかと自由研究で太陽光のみでお湯をつくる研究をした。黒いポリタンクを使って多くのお湯を作ることができ、両親も喜んでいた。近所の人にもその話をしたいと思っている。

「発生後」にどうすべきかを日頃から考え、周りの人と助け合いながら「生きる」行動をとりたい。